

令和8年1月1日

照

常

(1)

常照

第865号

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇二六(令和八)年 元旦

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話(〇一二四)二二一〇七四四番

FAX(〇一二四)二九一四〇八〇番

テレホン法話 二七一六―一六番

※ホームページ・Youtubeチャンネルもどうぞ

新年の願いごと

新しい年を迎えました。今年も全国の寺院や神社で初詣や年始のお参りが勤められ、たくさんの方々がお足を運び賑わったことと思います。私たち浄土真宗のお寺でも新年の法要「修正会」がそれぞれ勤められました。

特に神社の方に参拝される方々は、ほとんどの方が「今年一年、いい年でありますように・・・。」といいことがありますように・・・。」ということをお願いしに行かれます。言い方を換えれば、自分の思いどおりになるように神様をお願いをしに行くわけです。

しかし、真宗寺院の修正会はそういう意味合いの法要ではありません。

そうではなくてむしろ逆に「仏さまから願われていることを私たちが聞かせていただく」場なのです。そしてその願いとは、「良いことがあっても、悪いことがあっても、生きていけるあなたになってくださいね。」という仏さまの願いです。これは修正会に限らず、お寺のすべての法要はこの仏さまの願いに出遇わせていただくためのものだと言えます。

神様さえも犯人に

私は高校時代、野球部に所属しておりました。その野球部では毎年の恒例行事だったので、最後の夏の大会

が迫ってくると、何週間か前から、毎日練習が終わった後、部員・マネージャー全員で市内のある神社に行って、必勝祈願をしていました。「最後の大会で勝てますように。少しでも長くみんなが野球ができますように。」と全員でお願いをしました。結果は一回戦コールド負けでした。市内のどの高校球児よりも早く夏が終わりました。今その時のチームメイトで集まると、あくまでも笑い話ですが「神社に祈願参りに行っている暇があったら、その時間に少しでも練習していたら勝てたんじゃないか」という話になります。

私たちの根性の内実は、神頼みといっても、思いどおりにならなければ、神様さえもその犯人に仕立て上げるし、逆に思いどおりになったら、そのときは自分の手柄として、神様にはお礼の

一つも言わないのではないのでしょうか。

思いどおりにならない人生

私たちは、いいことがたくさんあれば幸せだと思っています。自分の思いどおりに叶えることで幸せを実現しようとするわけです。しかし、本当にそうでしょうか。正直なところ自分の思いどおりになるかならないかは「縁」次第です。たまたま「縁」が整って自分の思いが叶う場合もありますが、大抵はそうならないことの方が多いようです。すべて思いどおりの人生を送ってきた人はまずいない、と言っているでしょう。でも、思いどおりにならなかった事柄にも本当は大切な意味があったのではないのでしょうか。

いいことばかりの人生は「楽な」人生です。でも思いどおりにならない、つらいことや苦しいことがある人生は「深い」のだと思います。楽ではないけれども、そういう出来事が人生に「深み」を与えてくれるわけです。楽な人生では得られない「深み」です。

仏さまの願いと励まし

真宗門徒の新年は修正会で始まりま
す。それは「いいことも、悪いことも、
そのすべてを自分のことと引き受けて、
深い人生を精一杯生きてね。」という仏
さまの願いと励ましを、年の始めにい
ただいて、その一年をスタートさせる
という意味があるのだと思います。

合掌

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 二二一〇七四番
FAX (〇二三四) 二九一四〇八番
テレホン法話 二七一一六一番

これからが

これまでを

決める

藤代聡磨